

1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月1日

【評価実施概要】

事業所番号	08922600016		
法人名	社会福祉法人 豊潤会		
事業所名	ゆたかな郷		
所在地	茨城県那珂市中里1184-1 (電話) 029-270-9005		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年5月12日

【情報提供票より】(平成21年2月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月8日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 5.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	480 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380 円			

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.7 歳	最低 68 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	なかむら内科・泌尿器科クリニック 岡歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは白鳥が飛来する池や森林に囲まれた自然豊かな場所にあり、近隣住民の散歩コースにもなっている。職員は、利用者が自分のペースを大切にしながら日々の生活が送れるように、理念を基に関わりを持つ取り組みを行なっている。今後も、地域住民や行政との関わりを深めながら、より質の高いケアの向上を目指しての取り組みを期待したいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価のため、この結果を受けて改善計画を作成しケアの質の向上に全職員で取り組んでいくことが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員も項目に目を通しているが管理者、相談員、介護主任が中心となり自己評価を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	まだ開催できていない状況にある。現在、開催に向けてメンバー構成等検討し、準備を行なっている段階である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族交流会の開催や面会時の報告や相談を含め、家族の意見や要望を聴く機会を多く設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の清掃活動の参加や、散歩の際の関わりなど積極的に利用者と近隣住民が関わりあるように取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念を基に、7つの項目に添って独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に、ミーティングなどで日々のケアを見直す機会を作っている。また、今後はさらに理念が浸透できるよう具体的なケアと合わせて振り返る機会を作るよう取り組む考えである。		職員間で理念を定着させることにより、日々のケアが理念に添ったものとなるよう取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣で行なわれている清掃活動に参加したり地域との関わりを持っている。また、自治会への入会を検討している。		今後は、地域の一員として利用者とともに地域活動に参加することで、より深い地域とのかかわりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初回ということで管理者、相談員、介護主任が中心となり自己評価を行なった。職員は、目を通しては参加までには至っていない。	○	評価の意義に理解は十分にされているため、今回の外部評価を活用し改善計画等を全職員で取り組んでいくことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、実施できていない状況である。	○	行政や地域、家族への働きかけを積極的に行い、定期的な開催に向けての取り組みが望まれる。

茨城県 グループホームゆたかな郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、地域包括センター主催のネットワーク会議に参加しており、市とも相談や話し合いの機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族交流会での意見交換や日々の利用者の様子を面会時に伝えたり、受診報告や金銭管理の確認などを行なっている。		ホーム便りを定期発行することが検討されているため、プライバシーに配慮しながらの発行が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者への苦情受付方法や意見箱の設置など家族の意見を取り入れる体制作りを行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動等はなく、退職の時には送別会を行い利用者の混乱を避けるように配慮している。また、新人職員が来たときには利用者との関わりをゆっくりと持てるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修の充実とともに、外部研修についても積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は高齢者ネットワーク会議、県北地域密着型サービス協議会、ケアマネージャーネットワーク会議などに参加し、意見交換等を行っている。		今後は、職員も含めた交流を行うことでより質の高いケアを目指すことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時は家族の協力を得ながら利用者が安心できる環境作りを行ってきた。また、希望に合わせて体験入居の受け入れが可能である。		新規の利用者については訪問や体験利用、体験入所などを通して馴染みの関係になり入居へ移行できるよう取り組みを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からの知識や意見を尊重した関わりを心掛けている。利用者同士の気遣い方から人との関わり方を学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り利用者からの要望を聴き、それに添ったケアの提供に努めている。		アセスメントの充実により、さらに利用者の要望に添える暮らしのサポートができることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントやカンファレンスから利用者の生活の要望を読み取り、介護計画に反映している。		今後は、家族の要望を反映しながら利用者本位の介護計画を立案していくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じた介護計画の見直しは行なっているが3ヵ月ごとの定期的な見直しまでは行なえていない。	○	日々の記録を介護計画に添ったものとする事で、より明確な介護計画の見直しが行なえ、利用者の状況に合った介護計画の作成が行なええと考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容、受診の支援、家族の宿泊支援など利用者・家族の要望に柔軟な対応を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の受診、入院支援、利用者のかかりつけ医の確保などそれぞれの状況に合わせた医療の支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後、見取りの支援を行なっていく方針ではあるが、指針が明確ではない状況である。	○	まずはホーム全体での指針を明確にし、利用者・家族・職員が安心して過ごせる終末期の環境作りが求められる。また、記録や承諾書などの書式の整備も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重した言葉かけがされており、個人情報保護についての書式の整備もされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人のペースに合わせてながら、不活発にならないようレクリエーション等への参加を促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに食事の準備から行い、食事が楽しみとなるように取り組んでいる。しかし、職員は検食以外は一緒の食卓で食事を取っていない。	○	一緒に食事をしたり、お茶を飲む時間を持つことで、食事がより楽しいものになるような空間作りが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴剤や季節のお風呂で入浴を利用者が楽しめるよう支援しているが、曜日が決められている。	○	利用者の希望や要望に合わせた入浴の支援が行えるような体制作りが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活のなかからそれぞれの利用者が役割を持ち、楽しみごとのある時間が過ごせるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物の支援、ドライブなど日常的に屋外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることへの弊害を職員は理解しているが、事故防止や安全確保のため玄関の施錠を行っている。	○	事故防止のためのケアの工夫を検討しながら、鍵をかけない時間帯を増やしていけるよう取り組みが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主的な避難訓練は夜間想定も含め行なわれているが、地域の協力や消防署立合いでの訓練は行なわれていない。	○	消防署立合いのもとでの避難訓練の実施と、災害時の備品の整備や近隣住民の協力体制を整えることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた食事の提供が行なわれている。また、食事、水分摂取の記録を取り健康管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感があり、季節のものを取り入れた共用空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が入所前から利用していたものを持ち込んで、安心できる空間になるよう工夫している。		